



北回孝或問小解

熊澤先生述全



虞舜ハ野人の子也歴山
 耕マヤリシ時母
 シレ継母ガマツル父
 シル母ニツル舜田
 作テ耕シ竹ハ象来テ耕
 シ芸竹ハ鳥ツルテ芸
 誠孝ニ地ト動シ鬼神
 感ジヒ帝堯ニツルテ
 賓客ノ礼ト以テ九男ハ子
 小池走ト命リ
 女ハ子娥皇

英^{ひでり}氏^{うぢ}よりして舜^{しん}の婦^ふ妻^{さい}あり如^{ごと}く
わたりて中^{なかつ}つた如^{ごと}く

大舜^{だいしん}の如^{ごと}く一^{ひと}を斬^きりて仕^{つか}へた父
母^{はは}を恨^{にく}むも田^いゆさ不^ふ孝^{こう}の罪^{つみ}と天子^{てんし}作^{あつ}
てたゞとて許^{ゆる}へり内外^{ないがい}の法^{はふ}と先^{まづ}形^{かたち}氣^きの如^{ごと}
く過^{とが}ふと以^{もつ}て天象^{てんさう}島^{しま}より命^{めい}じて其^{その}當^{あた}り
し父母^{ははふち}を殺^{ころ}しむすをけりて
らひて出入^{しゆい}の如^{ごと}く帝堯^{ていぎやう}よりして
聖^{せい}徳^{とく}なりと後^{のち}に始^{はじ}て賓^{ひん}客^{かく}と中^{ちゆう}に擣^き鼓^こ
張^{ちやう}命^{めい}りて一^{ひと}を宝^{たから}位^ゐ張^{ちやう}るを許^{ゆる}へり



漢^{かん}の文帝^{ぶんてい}ハ高祖^{かうそ}の弟^{てい}三^{さん}の子^こ
諸^{しよ}侯^{こう}を封^{ほう}ぜりして代^{だい}王^{わう}と
号^{ごう}し諸^{しよ}侯^{こう}其^{その}仁^{にん}賢^{けん}と名^なを
ひて帝^{てい}位^ゐと名^なづく生^{せい}母^ぼを
祖^その側^{そく}室^{しつ}也文帝^{ぶんてい}よりして知^ちる
て及^{およ}薄^{はく}太后^{たうてう}より帝^{てい}母^ぼ事^{こと}
て至^{いた}孝^{こう}也薄^{はく}太后^{たうてう}病^{やまひ}て三年^{さんねん}
帝^{てい}安^{あん}と名^なをて帝^{てい}母^ぼと名^なを
稱^{しょう}ひてと名^なをていふとて
也湯^{たう}某^{めい}と名^なをていふとて

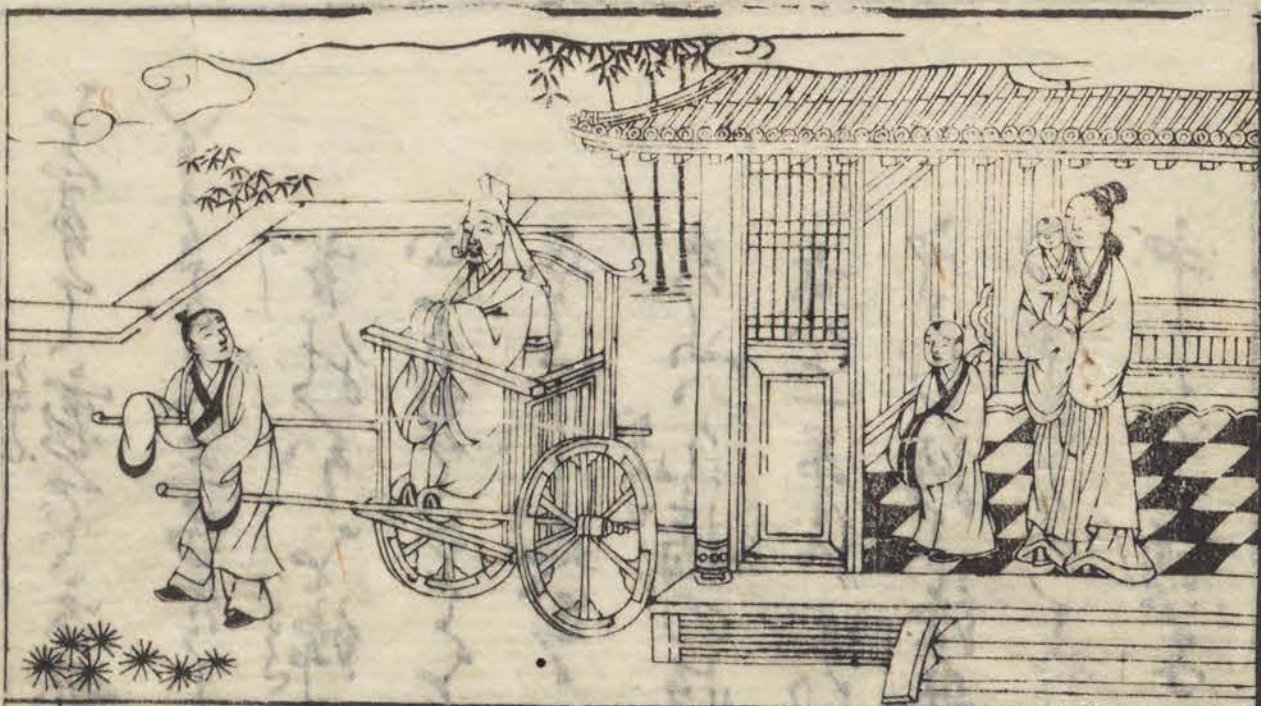
仁孝を以て
 小軍よ

漢朝ハ高祖よりひととち四百年
 の基ハ文帝の考より振るえり又孝ハ
 生みの至宝也宇宙にありてふけく日と
 して生むるものとふくね天地生るの徳に
 も受く性命とも萬物皆生る唯
 人ハ五行の精霊と得て明德あり萬
 物ハもろくも知る明徳の感也孝
 一先なり



周の曾子若ハ参字ハ子輿大賢
 也孔門道統の至也新しき
 へく至孝也わが山林へ入
 て薪とて人あへ客來れわ
 母参ると思ふと指張るじ曾子
 孝の束るこゝに知くつと
 母其故と問母の云急客
 わり吾指張るんぞかんち
 張るす

人々他の中へ居く一氣流毎を故
 こそ暑身は應少唯然熱乃人々
 こそ小病疾の人暑候こそ私欲の一
 体とるごとくふと熱病病疾のこそ暑
 候をせざるがごとく又も親子の骨肉を
 わを氣候はくわく一俣の情あり
 切やこそあり母ゆびとる光る子
 の心急痛うも母子呼吸おとるなり
 の情あり



周の同子石、損字ハ子審賢
人也。やゝ妙く、とられしや父
後妻と云ふなりて二子成すに
實子の衣服ハ綿わたと云ふそ
わづらひ損ハ芦あしの花を
いへり人々之を若年定
ふべきごとく父車くるまといひじや
はむかし少索せうさくと稱せられた
其方けりともなふ者を家
で継母をかんとす損ハ

と申して哀で云母いふはこれに
 ともすは三つありては母の
 計れかゝと婦とふは貧者の服也成人の肩ハ
 心と申してさうとさうと一幼少の人ハ甚ださうと
 云う一夫と云うと一妻と思ひあつた玉と
 夫ハ九情の収めつゝ子畜いふは生れど継母
 去ハ二弟ハさびしうんと後思ひて父のいふを
 さうじ終へて母の死と愛して慈母とす其存
 のまじさうのさうさう知又大けお孔に三千の
 中一と顔子因をと林やうは事むあり



周乃仲由字ハ子路孔門のさう
 也家貧一て常の身なり一藜
 藿の食と食す親ありは
 ちとあやと百里の卵と有
 てわらひを知ら父母の忠告とす
 親没して後南の方禁あり
 是より従車百乗はの案と積
 一と萬鍾のの祠とわらひて坐
 此はけらけら今もとけをて
 云親のあはまはけ有義飯と

命をんと思ふたふつあ
 子路へ雷心強力の人なりあ貪欲を生れ
 勇力ありあへんハるう強と用らと
 る云通りやあやあうう子路へ其力
 と父母の存望より用らあ多力のと
 けらう人うか天質の得る処あらね
 人欲のつらふ不周して忠孝の事
 小用いあてふ下へ不流平うあへ
 子路のうさけ万葉の師とふく



漢乃董永へ家といふあへ貪
 一父死して葬へる物あり
 富あは身と賣るて錢を
 子に葬礼とやうあわく
 て主あふゆさやけくと
 けらんとす途中一婦人
 小道につくら永くあえん
 とあひくともふあふ
 了まら秋羅と織くあ
 と累と一月小三百文と

ふりー續生はくめりるるふりふりふり
 うきうきゆきやふりふりふりふりふり
 かく婦人氷と縁して去

生る時ハ口のふりふりふりふりふり
 してふりふりふりふりふりふりふり
 とも親よりふりふりふりふりふり
 小我身と有るふりふりふりふりふり
 識るふりふりふりふりふりふりふり
 度つてふりふりふりふりふりふり
 の理仙だん姫と史婦ふふりふりふりふりふり



周乃判子生質篤孝なり
 父母老くとも小眼病なり
 鹿乃乳と得く今ふりふりふり
 禄ふりふりふりふりふりふり
 物なりふりふりふりふりふり
 母の眼疾いゆふりふりふり
 ふりふりふりふりふりふり
 鹿の皮と衣く深山ふりふり
 鹿乃ひふりふりふりふり
 得く親より供と獵者鹿

魚子、ちんちん割子起くうのゆへと若
 鹿の皮は衣衣く鹿群ふまうつる
 へをくちやうとるまうとる鹿道と
 何とまうつるや志うれとる孝威の
 神と動とこのゆへと鹿もさげはて
 乳紙やう至談得とるうの紙分
 がせとふ念のれうはうの処打



後漢の江華のうさりさ時文
 とあふむとわ母と相依わ
 せうふるうとすく孝の
 也乱とるひ母と有く難
 けぐら途中益城多一華
 げあびやうとつる去
 老母のうとけ若く泣城
 とるうとる殺ふとる
 しくゆとる下切とる
 ふうとる母子一物

人の為ふいふとて母を孝へし得る
 処乃物皆母の衣令とありて初月
 江草身乃難と忘るる母のよりふり
 りしとて母より母ふらあまんとて
 けりやうの慈母乃る子にやうとて
 金作の精神赤子ふわうのあま
 の子に思ふに和意をいふ人皆ほと
 どくくくくく子の親にほくくく
 應りけりあふ孩提の母に轉るれ
 者といふ



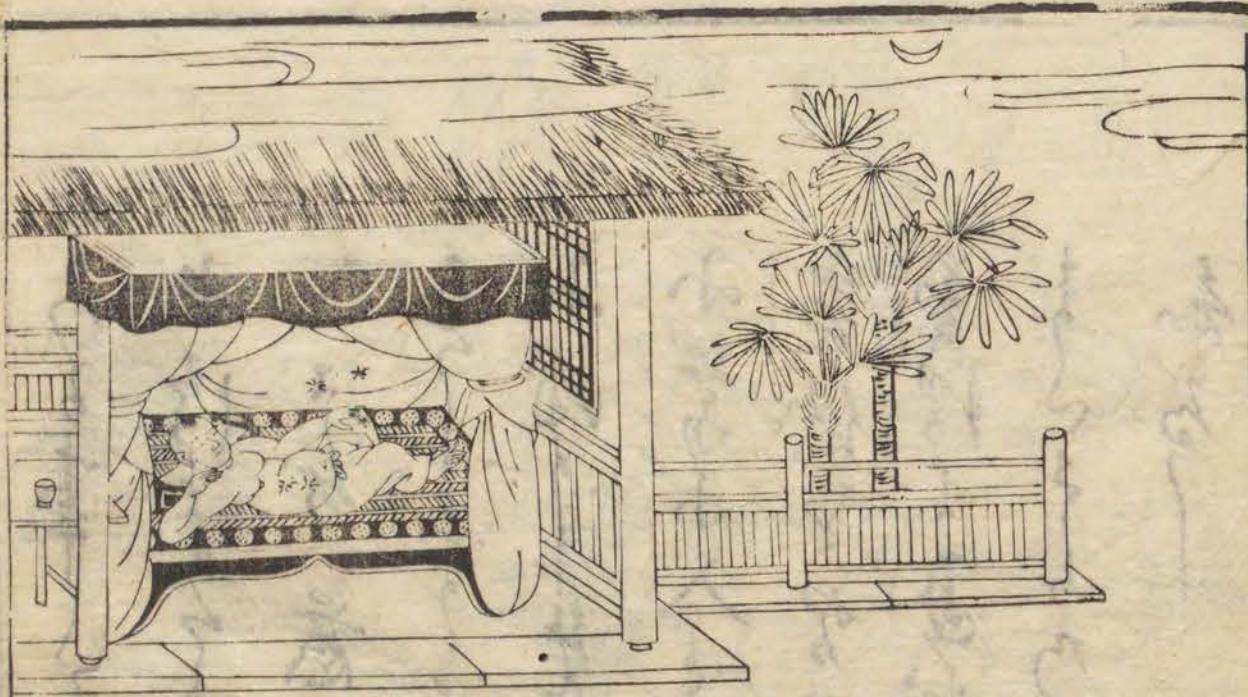
後漢乃陸績字公紀年六歳
 の時九江の袁術小兒の袁
 術橋とありて思ふのあま
 あく績橋二枝と懐中を
 ゆりふらうと稱する時地
 に行らぬ袁術云陸郎賓
 客とれりやうと物なふと
 うりやうとやと績はさま
 ついて答へて云吾母の
 ひゆりてはゆりてと

と術大^{しゅだい}一^{いち}亭^{てい}なりあとき
 六歳^{ろくさい}乃^{なり}四^し三^{さん}つら食^くらうこし
 忘^{わす}れく母^{はは}の性^{せう}の愛^{あい}らう事^{こと}と思^{おも}ふ
 かうふわらうれはむじらうやう
 しと地^ちの落^おれ貴^き人^{にん}つうけうし
 四^し一^{いち}恥^ちりさあふ赤^せ面^{めん}ふ及^{およ}ぶ
 至^し誠^{じやう}大人^{だいじん}を感^{かん}ぜしむ王^{わう}性^{せう}教^{きやう}と
 女^{にょ}礼^れと失^{うしな}すうらうくあしとを礼^れ乃^{なり}
 中^{ちゆう}あそむ



唐^{たう}乃^{なり}崔^{さい}山^{さん}南^{なん}づ父^ふの母^{はは}唐^{たう}夫人^{ふじん}
 姑^こつうて至^し存^{ぞん}る姑^こと
 長^{ちやう}孫^{そん}夫人^{ふじん}也^{なり}年^{ねん}うらう
 齒^はあ唐^{たう}夫人^{ふじん}毎^{まい}日^{にち}髪^{かみ}洗^{せん}
 れる力^{ちから}とさうかん堂^{どう}に
 升^{のぼ}て其^{その}姑^こ乳^ちをのまうむ
 姑^こ粒^{つぶ}食^くやう事^{こと}教^{きやう}ふ
 あし堅^{けん}固^こ也^{なり}一^{いち}日^{にち}長^{ちやう}孫^{そん}夫人^{ふじん}
 次^{つぎ}余^よ乃^{なり}病^{びやう}らう長^{ちやう}知^ち皆^{みな}乃^{なり}
 了^{りやう}時^{とき}云^いふ事^{こと}なり

よれの思を轉ぐつゝもわゝるゝ子孫の婦
 人新婦の孝敬のこゝろなり事と乳の
 老父の姑と乳を飲（一）め姑もまた辞（二）や
 してよれ乃乳とのじゝ常れ人情と
 以てこれ共の心もおろろゝ事と唐文
 人姑の老衰と云ふと児のこゝ常の食
 と食してこれをもく至誠と乳と飲（三）む
 姑も其仁孝と感して辞せず老てふ
 び問とけり言ひ姑婦ともく事と云
 とも亦是凡情の及らん処とわらふ



晋れ吳猛年八歳親より
 純孝也家貧なれ夏
 乃布といへど蚊とよむ
 べき帷帳を衣被れ肌
 膚ふりつゝ暑く膏血と噴（四）
 吳猛親のこゝろとわ
 らしを不驅（五）已とらつた
 去る親の身ふりつゝ
 といひ悲しく也
 よの常れ人の親の事

うる事々中心悦々なりとあるは
 也はとてつづるはよりとて蚊の力
 とさかハ慈母の愛よりとて先
 る一とては我力ふあらうとて親の
 ふゆ一とては人よりとて八業は
 小童ふ人よりとて父母兄よりとて
 官儀とておのれよりとて書讀
 義理とて道徳よりとて天性の
 まことなり良能良能吳猛
 知る



晋王祥字休復もわく母
 と其母継母朱氏慈わらうとて
 父のあは祥不孝といひ
 諍とてびくさけりわく祥
 りわく愛は父の失ひ天性の
 是よりしむる母生魚とて食
 せしは思ふは天をくしと
 氷はく来りふくわ祥
 衣はく氷より氷魚とけ
 て双履躍とてわく母

傍り朱氏しゆしの思おもと慰なぐさむ様よう心こころもまうと安やすし
 嚴寒げんかんの厚あつさ氷こほり人ひとを凍こさるゝはあつと衣えを
 わきり先さきふる氷こほりをわきり何いかん解とく
 さ氷こほりのつゝ解とく難むづかし至いた誠まことに地ちを動うごか
 ず感かんづくは忍しのび也なりと云いふ河か水すいの上うへに氷こほり
 二ふた層そうありと云いふ事ことと晋しんの王わう様やう天下てんか一人ひとりは
 如此かくの存ぞん子しと云いふ継母けいぼ不ふ存ぞん事ことと云いふ
 信しんず小こい父ふといへる事ことと信しんず老らう子しは信しんずと
 あり忍しのびや曾子そうしの哭なみと母ははの信しんわらうと云いふ
 事ことは小こい父ふと云いふ後人こうじんに云いふ事ことや



漢かんの郭かく巨きよハ貧者ひんしやなり三歳さんさい孩こ笑わら
 乃すなはち郭かく巨きよ母ははこの信しんと愛あいし
 て云いふ事ことの合あひをわらふ事こと
 郭かく巨きよ妻さいは告つぐ云いふ貧ひん者しやは
 云いふ母ははは信しんず事ことなり云いふ
 事ことは郭かく巨きよ母ははの合あひは減へる
 此こ子こは埋うめる事ことなり云いふ坑あなに
 掘ほぐと三尺さんしゃくなり云いふ黄金こわん一ひと金きんと
 得える事ことなり郭かく巨きよ母ははは云いふ天てん賜み郭かく
 巨きよと奉ほう行かうする事ことなり云いふ事こと

奪し紙得が

祖父母の養を愛し、人を知るに常なる
 や、いふに凡心、知る時父母を孝ひ、長
 ていふ妻を敬、愛に父母を見よ、孝目よ、
 一、あるに郭巨、親の膏は害はる、ある
 三菜の餌と云ふ埋る、幼少れ時父母を
 孝ひ、くもりふくみ、物り、この心を養
 妻又同心同徳、くもり、天下、この妻
 婦の、はなれ、くもり、古今、又、なす、
 けの、金、量の、名、六升、四升也



昔は揚子年十四歳の時父は
 子よりいへば田をゆく父の盡
 粟と獲むるをこれにたむ
 常ふ力は應じて父の力
 と助く時よ虎が来るを父
 生かして中央揚子力幼
 弱して又年小鉄器
 としてとて父は力と
 と知く力わす事と不知
 けづるにいひてみ双を

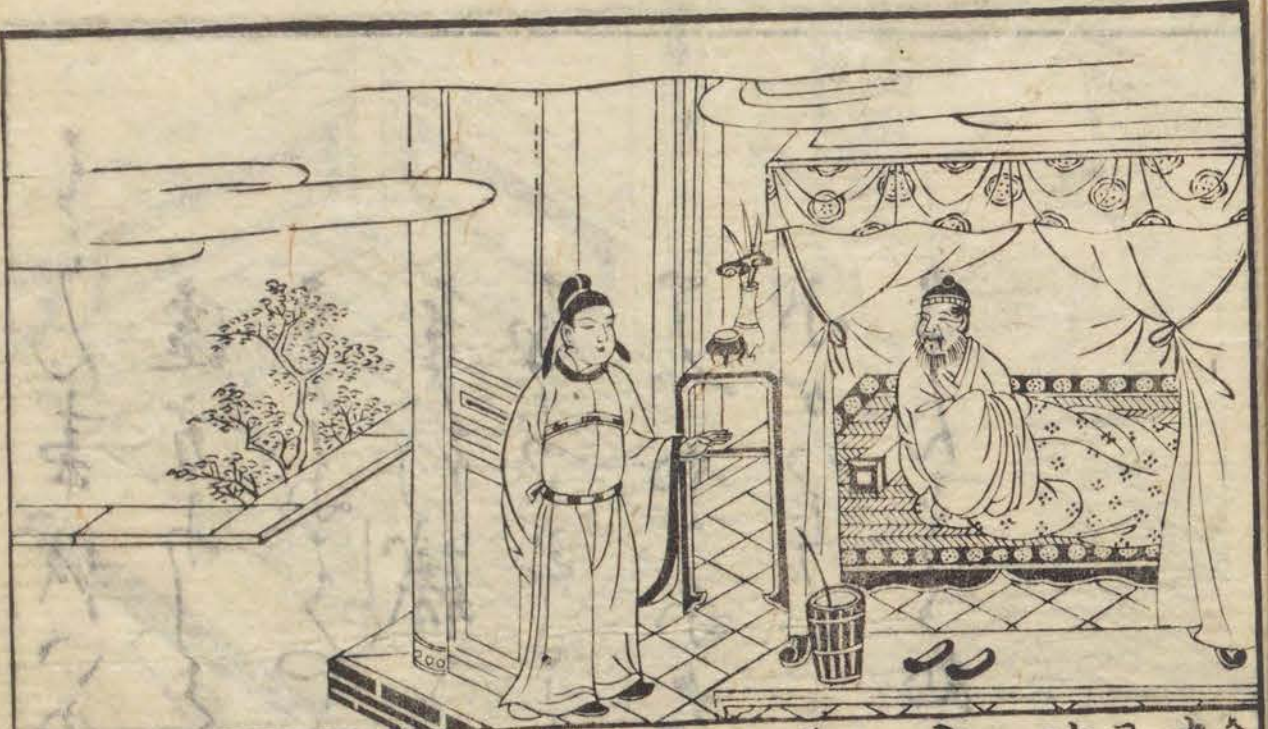
ふく虎の頭を撫り虎もにやぐず豊と
うてあやふくうてまふふ言くまふ
ふくふ

楊名こつらうふふ事とふふふ
ふく虎も勇猛とふふふ去る感天
地神明と効と古今武勇のやふふ
ふふふ或ハ勇力にふふ或ハ利力
夫とふふ或ハ知謀とふふ或ハ力
也楊名ふふてふふ事一ふふ
ふふ大勇也仁者必と勇にふふふ



宗乃朱壽昌ハ妾の子けふ父の
正室と母とす七歳乃時ふ
室壽昌ハ母と池市ハ都
嫁と相不知と五十年也
神宗帝の時ハ官禄と
とて秦乃地ハ入く生母
劉氏と尋ハ母を死んてハ
不語くらふ終るまでと
ゆふ時ハ母乃年七歳
朱壽昌ハ我朝乃いふ

ならハ公家の〜〜我家乃伐〜
 といふものさ〜〜小同家人〜
 といふものさ〜〜や〜〜人〜
 といふものさ〜〜官禄と去〜
 至情を人〜〜とす



南齊乃庾黔婁（いんせんろ）人〜
 陵と法（はふ）ひ令〜
 十日〜
 身汗〜
 云病乃輕重〜
 黔婁〜
 心〜

ろうん事成いのか父終る死ふ
 遠方ゆく病を告る者つゝい
 ろうふくやく父の病れ終るゝと知て
 ちり職と穢し官禄ととつゝこ
 ろふまゝらゝのぐゝゝゝ
 丁々ふちやゝ悔まゝ真とら死
 ふゝらゝらゝ存心のもゝ人情の
 ろんそゝ処や



周の老菜子、至孝のこゝろゝゝ
 二親はも老ふゝゝと其
 甘美とさつじ行年七十
 歳して老ふゝゝと其
 父母の在る為りゝ家ゝ
 けいふゝゝゝゝゝゝゝ
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 嬰児の啼とけゝゝ双親は

隻とふふ

素のこれと云ふは味申く亦さうの味酸
 しと云ふは神と云ふは至味と云ふ
 借る全休の精神親のよはりて
 う味を好むと云ふ此一事小
 て他の常と云ふは父母はあつた
 里無小なりと云ふは心こころの養
 ち事外そとは其誠と感と有通乃のち也
 生れては不義と云ふは孝の
 智と云ふは性と云ふは後人のちの



九歳乃童子躬勤若と執て子ての膳
 とあやしく父を教養せしむる如く
 母を念て父と痛むる日やうび得て
 親ゆきてるる存子の日氏愛ふ唯
 この存事に従容とて礼をてり天
 質れ美也



漢乃姜詩母事て至孝也
 妻の龐氏姑もなむとて茶
 謹なり母好く江水と飲めり
 龐氏おくるをく江中へ水と
 汲く姑もまじ勤勞とて
 うつどく喉ほく又魚の膳
 と嗜むる姜詩常ふ生臭と求
 め膳を作り母より隣母代りて
 共ふ食を食ふるはるる魚車
 泉を味江水のうと一日は双裡

躍る

姜詩うらう母を孝けりとのりけりす妻は
仁として誠にも此處よりく妻の志はあつひ
て姑も孝也夫婦が業とほよりて衣衾と
りかへ貧乏といふゆゑに所也あつひをきく江
水と汲生魚と求む母ハ嚴としてけりきり
ア隣母までとよびづらむをきりきり
子婦の芳とくわす夫婦をふつとよめ
のせりいひけりす至誠と他と動く江氷裡
魚屋のうらう生るる人けり妻のうらわ



魏の王褒親ふ事して純孝也
母存日雷声と怖るるをふ
没して山林のりふ葬る雷声
と事いふ疾風猛雨と云
と墓一わの奔て祔跪し
泣て告ぐ云褒うふりわ
母うらう事けりれと其心母
と我々のとせと父へ司馬昭
りふ殺さる後晋よりと一統
と王褒後力西へ向て坐せ

晋小臣よりうさるの義也

震ハ乾坤の長男也春交の時伏得る声と
奔るを雷とす人へ雷声とて
血流五病滯と消カ萬物ハ雷声
ふく沉滞と散して長盛と雷
ふくふく時ハ五穀豊年なり寸出船作
おとらふ此理を人ハ愛ふく
怖るへく王偉元母ハ怖るへく
の理をさくさく教ふもさくさく
かへく孝心死生とへく



漢乃丁蘭幼女れ時父母共
失く孤也母を哀とく
得るハ父母の親を生く
幼男也母を哀とく
切也思慕の情ハ二親の像
とき所とて小事とて生
るく其事久く不敬
指とてハ血流ハ木像蘭
とく眼中滴るハ蘭

その実をかく事と去

丁蘭懐哺養育の恩と報せう事と恨
二親の本像と堂上は列し朝又生る親
を孝に成りせし本像と主とてしう
終る家まで座はれし蘭は本像よりこ
と成る事と生る事とてしう
と以て人なりあるべき事とてり分
む像は枯る木なりとも蘭は孝の生る
よるなり故に生る人の應はる信の如
きなりは神なり



晋の孟宗字の恭武は少時より
父を孝に事し母を敬し
母老て疾有りて冬月
乃りて物を合せん
人かれ及んてふわん
竹林は枯る竹と抱て泣
き及地と感し須臾に地裂
て竹の子數莖あつた
ゆゑに母の疾愈
なり

天れ物をりすま生るー夏長ー秋收先
 を藏とる乃困藏の時、當て盛互
 四五月の華と見やもいそ得人、家
 常小急よ先ごら官氏ら親の親
 ーとあふつとふふふふふふふふ
 へふふふふふふふふふふふふ
 無心ーと竹林、ゆく嚴室、小華生
 ー孝感の祢物良菜とあれお神由
 不測の理や



宋乃黄廷堅山岳と号し元
 祐中、小急史、官とあれ性
 篤孝なり、少富貴をれも
 母は事て其誠を盡せり
 毎夕母の溺器を洗ひ婢
 妾の事もさうりせり
 榮顯を以て存性を極す
 うれ人早賤のまふおそ
 八士君子は業とせしに
 少富貴なり人ハ小人の

う成るうら世が昔よりうつあまを
うける者ハ徳や山岳富貴もそ
は多しと人とも老母の事て
えうう至情とあるが性のは
勉強の及とううううう

大舜ハ性命乃父母ハ人好つ大
存とも起つ父母の舜と殺さんと
する者ハ其中心ハ非が象が殺し得
ずと悟ふものも後来のもういふ舜
の生ておつととて思ふは

君は思ふとらひハ過と文王悪と稱ふ
悪人の常然ハ独とて思ふ一點乃
舜明不々ある兄と愛する妹
ある也こ乃ある舜其兄とあること
は悔ひ多し唯自己一團の王理のこ
うそ一毫及れなうゆふうの性
命と父母と一弟とて後来のも
悪と思ふとめは子悪をくへて
善とほらうのふかか或同然々大不
格此意ハ舜力と脩り善と行て

父母弟と薰^ス魚^{イサ}——て心^{ココロ}に恥^{はづ}れり
其惡^{アク}とてげ——うさうとの義^{ヨシ}云^{イハ}孫^{マコ}何
そ心^{ココロ}はりて父母の惡^{アク}とてさう
とてさうんがゐる薰^ス魚^{イサ}——て其^{その}物^{モノ}よ
うさうさうさうと——泣^{ナク}じんや
あうらも其^{その}惡^{アク}性^{セイ}は激^{げき}——て化^けとる事
わさう父母兄弟乃^{すなは}其^{その}惡^{アク}とてさう
心^{ココロ}に恥^{はづ}れり薰^ス魚^{イサ}——て六^む地^ち——
んさう起^おりあうさうて孝^{かう}氏^し——兄^{にい}
さうの愛^{あい}とて——雞^{けい}鳴^{めい}て仁^にとて

善^{ぜん}張^{ちやう}あ——懐^{くわい}とてさういふとてさうて父
母弟^{ぼてい}其^{その}惡^{アク}とてさうめ^めはさうさう
いさうさうも是^{これ}とて薰^ス魚^{イサ}——て刑^{けい}罰^{ばつ}——
落^{らく}入^にの大^{だい}惡^{あく}とてさううさうとてわさう
さう起^おりあう——りお孫^{まご}よはてさう
あうさうり——孫^{まご}其^{その}惡^{アク}とてさうさうし
せうて心^{ココロ}に恥^{はづ}れり孫^{まご}とてさうさう
——陽^{やう}明^{めい}子^し其^{その}郷^{きやう}は父子^{ふし}訟^{そう}者^{しや}何^{なん}陽^{やう}明^{めい}
子^しをさうさうて云^{イハ}孫^{まご}と
うれ世^よ乃^{すなは}大^{だい}不^ふ存^{そん}の子^こ贅^{ぜい}腹^{ふく}はこれ世^よ

大慈愛の父や舜ハ三つより大不孝
の者ト見へる故より不孝也瞽瞍ハ三
つより大慈愛ト見へる故より孝也
一成長じしと我ハ不孝ハ不孝の
子ト見へる故より後書乃みふふと
るくとも不知こゝにある不孝ハ不孝
者父子もはれおとる泣く去又云生
の大病ハ一の傲乃字也子ト見へる
不孝也臣ト見へる傲ト見へる不忠也
父ト見へる傲ト見へる不慈也君ト見へる傲

ト見へる不仁也亦ト見へる傲ト見へる不信也
少人の聖賢諸乃好人の名喚云と云
此ハ一の無我ハ我ハ我ハ則傲也我
ハ我ハ謙ハ万善の基百福の
母ト見へる傲ハ衆惡の魁禍災乃源也
舜の大孝大知一乃無我ト見へる大徳也
二乃問孝經云父有難子則死不
陷於不義如此可なり時ハ此ハ此ハ
二乃これと云ふこといふこと小孝と
不見不格ト云ふこと云云要なり

善と行ふべし。竹ハそれ志
自然の事やしむく相叶ふ父子
也ハ常の事ふいふらんハ
あつらん乃相談は各の良見多し
和らふ其よりふあつらんハ師弟
朋友君臣皆あつらん事多し。あつ
其和をあつてしハ非を足る事と知
や父母弟ハ不和とらんハ常ハ孩提の
時の和を不失父母弟の御人ようハ
まふへく刑罰はらん入つてやらん

あつ時ハそれい人ハ和と一旦の心持らん
とらんて常の人ハ思ふとらん
とらんハそれいハ孩提の和とらん
と殺らんハそれいハ常の和とらん
と何の事也悪うハそれいハ常の和とらん
と父の中心如此とらん我赤子孩提
と喜ぶ事とらん成長せしあやと我
と不悦者ハ我不孝とらん
と然ハ頑^{がん}固^こ傲^{がう}と化らん常ハ和とらん
処也董永王祥郭巨子母宗の篤意の

しうさて下各一人也平人凡情の及
むじ妙は非方至誠たるは感く天下
古今二つ行きて神應は孝子此情
とほくせ妙はとわくは人へさやほ
えふれと父母はとわくは或は情欲乃
父母ははく人或は体の父母と奉養を
うよるが故は天應も又神女とほく人
厚氷とらうの魚とわくは金と
たまひ寒筆紙生し給のそ大舜
とわくは徳聖人ともする天子とも富
と

海とさうし壽百有餘歳子孫一カク榮
乃大福とらうも明君は諸臣とさう
竹ふも如此一事くのそさげわんば
者よはうなりとく乃貴祿とたまひ
才徳衆よこくする者よは高官大祿と
命せうとらうもあうも人ハ百安のか
は射が如し舜乃孝ハ黒星ハ當らう
こく地乃孝子ハ的ハ當らうこくふ
ら矢まうとらうゆうさう者ハ及処ハ性
と人とも目當とすうハ黒星ハ

故は後学の人、大舜と師とす人
其天よりたまふ知の志ありと動ず人
よりすきと至性人等の父母と尊ぶ
しと後来の情欲と父母と尊ぶ其此
は目ふらんかへくとをも心はそうじへ
悪なりとくさへと人ふせうすと
とくふとくさうらの苦心くえん至誠と
父母平人なりと好人とわく
かゝる好人ありと親とわ師とわ
也問董永何と以て口体と尊ぶ也

云喪祭ハ家乃有無ニ志スル一親
乃精神去リ此の世に在ラズ乃
為子ノ一生故人のやほとせん
何う親の心もわかんや此一事
を以テルモ先祖ト云々法務と
て親乃モ喪とれいふこと
りし処も皆親は供へて妻子リき
あらへ親の位體の為メ先祖の統ついで
續たづなんとハ親をも又不孝の罪人なり
此親を出さず家の有無を志す

妻子はわそ共は孝を盡し 葬も聲
とやうううなり乃分るる 董永
小とわくハ天質の美や 神明と感
動するの篤存りしはつとやう
其時兩位の勢も後世に知る
のられ人の手印おはりたる事や
世々の人親の力を我力のとく思ふ
者ありハ大孝のやう有る 董永ハ
我力よわも親の身と愛せし妻子と
人の欲する処にあらんとし親を養ふ

小さくも有る思ふし 孝とわく人乃
やはこもふる事ハ人のとくし処や
と親の葬の為ハ一生煩やはふなり
うけふか人情のありたる事なり大
力量の人といふも及らざる処にあらん
とハ愛する人 孝ハ孝なり 同王祥
が後來の情欲乃父母は事なりといふん云
继母祥と不孝といひく父は 繼母愛
と父は失くさるはの悲なりむかふ実
小なり不孝なりなり 如此と思ふ

継母れげんとてうきで継母ハ孝行欲とて
 おわらすり急ぐなりといふれと
 いとも祥ハをねなとてうきして母
 ももが誠存けり故よ母生魚と欲
 としはけりかみと叶へるハ不存りよと魚
 ひく其得るさ紙分別せず至誠よ
 うれを求む其志の篤実ハ義利とてふ
 しう業あり祐明の君威まゐといふ必死む
 がふこち志ハ愛とて人々慕ふたふ
 ひろく嚴寒厚氷乃時雪の生魚ハ富貴

乃人れ夏秋より多く久おん事ハ志す
貧賤の者ハ上 俄ハ川江ハ得ハさ
やりろハの中ハ海遠く海の中
天子諸侯といハとも用行ハ多ク
川澤ハ来ハのモヤ 嚴シハ衣履ハ
きろくぞハ火絨用ハハ居
志ハともさハハ厚衣ハ外ハ大病ハ
発スルハ此身祖父母ハ傳ハ親の
口体ハ欲ハ為ハ生ハ中ハそハ
親ハ不孝ハ罪人ハ他人ハ少ハ慈

心^{こころ}わら者^{もの}人のいふをうするがごとく
や—父母の中心何ぞ—とらん王
祥も何ぞ—是非を論—とらん
世の人—これと—とせん後來情勢
父母は事^{こと}小流^{せうりゅう}もづ—問郭巨—
云一家の至^{いた}味^みと調^とて親よ—とて夫婦
ハ廉^{れん}食^{しょく}を食^くふ—子の志^しの親^{おや}ま—
法^{はふ}と愛^{あい}—とく食^くふ—とて法^{はふ}を
ハ親乃志^{おやのし}の中心慈^じ仁^にの発^{はつ}ん—とて
—とらん体の嗜^し欲^{よく}とわ—とて—

—とて親の中心は味^み—とて其志^しと
至^{いた}味^み—とて廉^{れん}飯^{はん}と供^く—とて親乃
独^{ひとり}味のそ—とて子^こ殺^{ころ}—とて親の中心大
小痛^{さう}—とて—とて—
—とて志^し—とて全^{ぜん}神^{しん}の精神^{しんしん}親^{おや}と愛^{あい}
敬^{けい}—とて小^{せう}—とて已^い—とて子^こ殺^{ころ}—
—とて又^{また}の心^{こころ}は順^{じゆん}—とて—とて天
下^{てふ}古今^{ここん}衆^{しゆ}人の及^{およ}—とて—とて道理^{だうり}
—とて—とて—とて—とて—とて—
篤^{あつ}孝^{こう}ハ老師^{らうし}大儒^{だいう}—とて—とて其^{その}十^{じゅう}—

と得るものなり。神明の具感（其至
誠純孝の心）はありて事ふはうす
者も又その道（道）を學ぶ。——郭巨が親
わがこと（試）知て已らば妻子（り）うす（試）
不知の者（と）いふ福（ふ）へ——孟宗（まうそう）は
云（い）ふ月の生（せい）華（か）へ（^{せいけん}）子（こ）大樹（^{たいじく}）と（い）ふしを
得（え）て不能（ふ）雪中（ゆき）中（ちゆう）ふが（ん）の花（はな）と（い）ふ
うす（と）うす（と）いふ福（ふ）と（い）ふも（時）あ
うす（と）物（もの）が（れ）る（を）食（を）ふ（と）うす（と）無（な）病（びやう）の（人）
が（あ）る（を）情（^{じやう}）じ（と）いふ（と）況（^{きやう}）や（病（びやう）人（にん）と（い）ふ（は）れ（る）

道理（だうり）よ（う）し（に）く（は）性（しやう）命（めい）乃（^な）心（しん）よ（う）し（に）く（は）
が（ら）ん（と）求（もと）め（た）け（つ）つ（と）も（付（つ）く）は（り）る（と）れ（る）
求（もと）め（た）け（つ）つ（と）も（い）あ（わ）る（と）も（食（を）ふ）と（い）ふ
う（と）う（と）の（道（だう）理（り）を）め（た）け（つ）つ（と）孟（まう）宗（そう）平（へい）日（にち）
其（その）あ（は）れ（る）得（え）る（と）れ（る）物（もの）を（も）親（おや）に（まへ）
子（こ）の（と）う（と）く（は）け（つ）つ（と）う（と）く（は）物（もの）に（まへ）
求（もと）め（た）け（つ）つ（と）も（供（く）ぐ）れ（る）其（その）さ（う）く（は）常（じやう）と
が（ら）ん（と）華（か）と（い）ふ（は）れ（る）ふ（は）り（る）——時（とき）が（ら）
う（と）の（物（もの）は）毒（どく）氣（き）は（り）あ（る）と（い）ふ（と）も（こ（こ）れ（は）孝（かう）
感（かん）の（物（もの）が（れ）る（と）良（ら）き（と）が（ら）ん（と）病（びやう）と（い）ふ

至誠神と感ずる道理ありて平生
も人の及ぶところを孟子の誠とい
ふ不^ふ言^ふ得^ずるの神助ありて至誠
無心の者として天地と動して鬼神と
感ぜしむるのみならず孟子の在
ては是非を論じべしとす其論は
時人性命の父母と云く情欲は事
れあやまらるるごとく誠よのこま存
子といふべくして君子といふべく
するものありきなりと云ふは存子

孟子の家と治へりて舜の父母兄弟
悪人なりきある存子の名は孟子感
得たり舜の父母と董永王祥郭
巨孟宗の父母のこころなりと云
存子の軍^{きん}もなりき勇感も有るなり
君子の道徳も存子事なりと云
や他の聖賢も存子のやなりと云
同いなりと云存子の母も人
云其位々其分々小意して家業は
失ひて存子と不亡子の力善人なり

父母の心を安^{やす}むと有りて人々存
經の五等^{ごとう}ふはまゐりて小字^{せうじ}なり
記^きせる者^{もの}なりへまゐりて上^{かみ}衣^え乃^{のち}代^{しろ}の
や末^{すえ}代^{しろ}は毎^{まい}日^{にち}あつてわづらひ
いふもこれハ時勢^{ときせい}人情^{にんじやう}なるべし
ろこの上古^{じやうこ}ハ上^{かみ}質^{しつ}素^そハ下^{しも}ひく
一^{ひと}の男女^{なんにょ}共^{ども}ふ人のやほと
有^ある時^{とき}ハ二^{ふた}つある子^こと婦^ふと父母^{ふぼ}ふ
はふへきふか人^{ひと}なり世^よのなり
無^む始^しハ此^この如^{ごと}く思^{おも}ふハはと
りて

りせらふ非^ひ多^た敷^{しき}をへ上^{かみ}に
下^{しも}るなり
わが故^{ゆゑ}ハ親子^{親子}兄弟^{兄弟}離^{はな}散^{さん}ハ
男女^{なんにょ}共^{ども}ふ人のやほと
有^ある時^{とき}ハ二^{ふた}つある子^こと婦^ふと父母^{ふぼ}ふ
はふへきふか人^{ひと}なり世^よのなり
無^む始^しハ此^この如^{ごと}く思^{おも}ふハはと
りて

の家業せしむるを勞役とせしめ父母
ふけふつとせしめぬなりとせしめ二三人の
男女はわらうも其業の法と免れぬ
お母ふつとせしめ朝夕の心術
存意の事致不失し一家和睦し又
母順なりとせしめ至るなりとせしめ
前漢の文帝家の代乃山告しとせしめ
天質れ養也存意の一事ふとせしめ
生念安行なりとせしめなりとせしめ
わらうとせしめなりとせしめ

は久富貴しとせしめ婢妾の事とせしめ
わらうとせしめなりとせしめ
ひく下つとせしめ病のおとせしめ
なりとせしめ不実なりとせしめ
なりとせしめなりとせしめ
なりとせしめなりとせしめ
なりとせしめなりとせしめ

此世四孝ハ息游軒熊澤了芥先生の注
釈なり附録にある人の問答答へて孝道
至理を教授しぬひつゝを梓行して世に
ひろくを梨

寶永庚寅冬

小山知常誌



文化十稔酉初春求板

吉田屋新兵衛

此川西孝ハ息游軒熊澤了芥先生の注
釈なり附録にある人の問ハ答へて孝道
至理を教授しぬひつゝを梓行して世に
ひろくを榮

寶永庚寅冬

小山知常誌



文化十稔酉初春求板

吉田屋新兵衛

